

八期生

雑



徳美 恭子

何の意味もなく、人に勧められるまま、
 五六人のクラスメイトと練習していたのが
 部が始まったもとなのです。コリ子もなく
 毎日遊んでいたと云った方がピッタリです
 ね。その部を今日の様な、部史を作るよ
 ろまで発展したのは、私達より後の方達の
 力の大きかった事と存じます。
 何しろ勉強におわれ、暇をみでの練習だ
 ったので、スミ度対外試合をしたようにも
 思いいますね、敗けてばかりでした。そのう
 ち私も身体をこわし、ほとんど出なくなり
 見ている方が多くなつて、一年下級の人達
 がはりき、てく出ていた事を思い出します。
 卒業の年の国体大阪予選にも参りまし
 が、身体が衰えたためお断りしてしま
 たので、試合の思い出はほとんどありません
 ン。なにしろ、嵐の中、ジャンプシート
 を男子学生に、一生懸命教えてもらったこ
 とぐらいで、いよいよか？

— 終り —

九期生

女子送球部の道

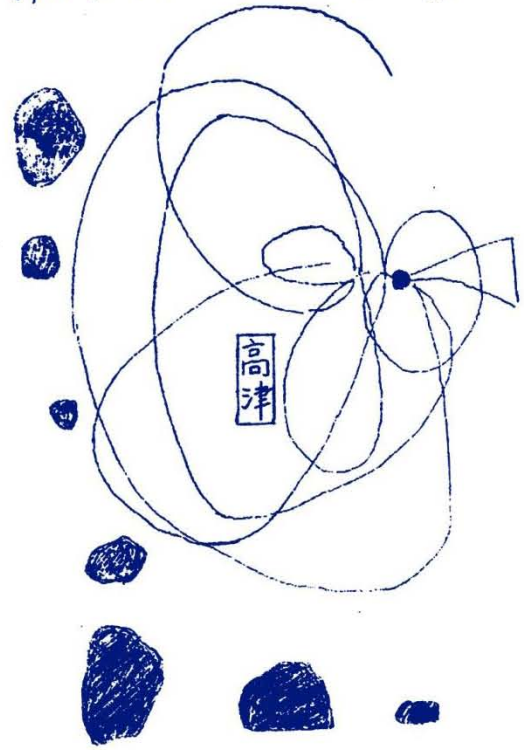
菊井 清美

部史の発行、合宿等、多方面に活躍中の
 後輩の人達からの返りに接して、ペンを執
 ることにしました。
 私達のハンドボール部にも、やっと歴史
 らしいものが纏られ、あるように思う。
 思えば私が初めて送球部の存在を知り、
 加入した時、ほんの少数の女子が、男子に
 混ざって走り、跳び、且つ投げていた。そ
 の当時、佐竹君という実に親切な人がいて
 女子部創設に大いに助力を払ってくれた。
 執行部の人達の前で、或は各クラブ代表者
 の面前で、女子部設立の意義や主旨を説き
 女子部発足を如何に期望？男子人が思い
 がき力説した。他のクラブの各部長が顧問
 の意見だけに頼らず、あくまでも生徒が主
 体となり、自主性をもった立派なクラブと
 なるように応援してくれたのは、今から六
 年前の春だった様に思う。
 今こそ虚心坦懐に述べているが、生まれ
 て初めて右も左も解らぬ運動の世界に飛び
 込み、やれ部を作ろう、やれ部長になった
 さあ部員の勧誘だとかよく駆いたもめだと思
 う。

設立第二回の試合が、対今宮高校で大差を
つけられて敗れたように思う。当時は試合
をするのに今の男子と同じ十一人必争で、
レギュラーを身めるのに苦勞した。その時
のメンバーは、菊井(1)、平塚(2)、波不(3)、
山口(4)、岩瀬(5)、松尾(6)、萩原(7)、吉川(8)、
石丸(9)、森(10)、田中(11)であった。試合中
にルールや、マナー、かけひきの帶領をのみ
こみつて、ユニホームもなく、普通の体操
服でかみシヤラに戦った。試合終了後、高
島屋の食堂で、田中さや先生に全員あこ
ついたので、田中先生には、部屋のない私達
に体育館の道具室の大きな箱をいれた。に
御恩もある。その箱のある部屋に行くのに
おみやげに部屋と行ってはいけなさと禁
じられていたので、部屋に行くのを禁
事ある毎に集まっては何か食べていたよ
うに思う。

初めて分配されたクラブ費で公認ボ
ールを購入し、男子用と女子用はサイズが異な
ることも発見した。

軌道にのりはじめると、そろそろユニホ
ームを作りたくなるのが人情で、早速いろ
いろな所から情報を集め、グリーン地で白
のカラーでブロードの注文したスタイルは
良かったけど、どうも動きにくかった。新



ユニホームを着て、体育祭での行進がど
も暗い感じがして、ぎょうろーとしていた
全戦全敗の記録が破れたのは、対八尾高
校で、この時は相手校のレギュラーが、日
程変更の為と儀なく不参加してくれ
で、これでも私達ほうれしく、次に駒を
めいた相手校、梅花学園に勝った時には、何
か光明がさした感じがした。部費をため
たり、日誌をつけだしたのも此の頃で、学
校へ行けばハンドボールにしか目がなかつ
た。

そんな日々を訣別を告げて、次部長のバ
トニを岩瀬さんに渡して卒業した。